

「学びを豊かにする」授業の事例研究

— 動機づけに重点を置いて —

浦上 千歳 ・ 伊藤 圭子*

1. 広島大学附属東雲中学校における「学びを豊かにする」視点

広島大学附属東雲中学校（以下、本校と略記）では、一昨年度より「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造を研究テーマとし、研究を進めてきた。昨年度は、協働的問題解決を生起させる授業デザインの視点を模索してきた。今年度は、これらのことを踏まえ、さらに発展させ、各教科において学びを豊かにする指導法を明らかにすることとした。なお、本校がめざす「学びの豊かさ」は、「子どもたちの主体性・協働性・多様性が相互に影響しながらめざす子ども像に迫っていく状態」と定義している。また、「学び」は「知らない自分との出会い」と読み解いている。

2. 家庭科における「豊かな学び」のための視点

次期学習指導要領の改訂において、アクティブラーニングがうたわれており、本校の目指す「豊かな学び」のためには、深い学習を組み込んだディープアクティブラーニングが起こる手立てを考えていく必要があると考えた。著書『ディープアクティブラーニング』の中で、「深さ」の第3の系譜として関与における「深さ」をあげ、『今日の授業は面白くて時間がたつのが速く感じられる』といった主観的な時間感覚は、関与の深さを示す1つの指標であり、この『関与』を動機づけとアクティブラーニングの相互作用とし、アクティブラーニングを「頭がアクティブに関与しているということ」と書かれている。

そこで、授業中での動機づけに着目し、「豊かな学び」となる授業デザインを考えたい。これまでの研究において、動機づけの部分の授業展開が、その後の活動（学びの深さ）に大きく影響している事は少なからず実感している。ここで言う動機づけとは、単に何を課題とするか、どんな問い方にするかだけでなく、その課題をいかに「追求したくなる自分の問いにさせるか」という点を重視し、そのための授業展開を考えたい。

本年度の研究の目的は、昨年度までの研究をふまえ、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京 2020 大会」という。）が、生徒自身が追求したくなる課題を生む動機づけとなるか明らかにし、「豊かな学び」を生む動機づけとなる新たな教材を開発するための視点を解明することである。

3. 授業の実際と考察

本項ではまず、動機づけ部分の授業の一場面を取り上げる。次に、授業前後の生徒アンケートを分析した資料を示す。

3-1. 家庭科の授業～動機づけ部分の授業の一場面

動機づけ部分の授業の指導案を表1、授業の様子を図1、動機づけ場面で生徒があげた「東京 2020 大会に関する食生活」の視点を表2に示す。

*広島大学大学院教育学研究科

Chitose URAGAMI, Keiko ITO
Case study of class “Enrich learning”
—Emphasis on motivation—

学びを豊かにするための手立て

生徒自身が十分意識しているとは言えない, 「東京2020大会」を題材として取り扱ったことが, 第一の手立てである。また, 調べ学習の場面で, タブレットを各班2台準備して活動させる。教室内でx Syncとインターネットを活用することで時間を短縮でき, 発表では写真も示すことができる。いろいろな機器を活用することで, グループワークを円滑にして, 生徒の学びを深めることができるように環境整備していることが, 第二の手立てである。

表1 動機づけ部分の授業の指導案

日時	平成29年9月～10月	第1時
年組	中学校第2学年1, 2組 計80名(男子37名, 女子43名)	
場所	中学校家庭教室	
単元	「地域の食材と食文化」	
指導計画(全3時間)	1. 東京2020大会について知ろう 世界の主食を知ろう〔ネット検索&発表・交流〕…………… 2時間(1/2本時) 2. トルティーヤを使った給食メニューを考えよう…………… 1時間	

本時の目標

「東京2020大会」と関わるため, 食文化に興味を持って調べることができる。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点(◆評価)
<input type="checkbox"/> 「東京2020大会」への関心度を確認する。	<input type="checkbox"/> (事前に)簡単なアンケートを記入させる。 <input type="checkbox"/> 質問ごとに挙手させ, 多くが関心が薄いことを確認させ, 安心感を与える。
<input type="checkbox"/> オリンピックミニクイズにチャレンジする。 <ul style="list-style-type: none"> ・東京大会は, 第何回目? ・前回の日本での開催はいつだった? ・参加国数は?参加人数は? ・東京大会で広島を合宿地にする国は? <input type="checkbox"/> 「東京2020大会」に向けた社会の動きを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・衣生活に関わる動き シンボルマークと日本の伝統文化(江戸小紋)の関係について ・住生活に関わる動き 大会会場の建設や合宿地などについて ・消費生活に関わる動き 大会マスコット, コラボグッズ, 記念イベントなどについて <input type="checkbox"/> 「東京2020大会」に関わって, 食生活の面から予想されることを出し合う。<写真1> <input type="checkbox"/> 世界の主食分布を知り, その食べ方を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・1つのグループで, 割り当てられた国について調べる。<写真2> (主食は何か?どのようにして食されているか?)	<input type="checkbox"/> オリンピックに関する知識が少ないことを自覚させる。 <input type="checkbox"/> オリンピックが世界規模の大きい行事である事に気づかせる。 <input type="checkbox"/> 写真や新聞記事など, 自分たちの生活にあることで生徒が気づいていない事を紹介する。 <input type="checkbox"/> 衣生活について知らせる。 <input type="checkbox"/> 住生活について紹介する。 <input type="checkbox"/> 消費生活について紹介する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第2時に, 班ごとにそれぞれが得た情報を, 集めた写真を示しながら発表して, 全体で共有する。 <写真3> </div>	<input type="checkbox"/> 日本に来た外国人が, 困りそうなことや気遣いできることなどを想像させる。 <input type="checkbox"/> 各班に, オリンピック参加国を割り当てる。 <input type="checkbox"/> 各班2台ずつタブレットを使用させ, 国別記入カードを作成させる。 <input type="checkbox"/> 国の分担をあらかじめ穀物別に振り分けておくことで, 内容が深まるようにする。 ◆興味を持って調べることができている。 【生活や技術への関心・意欲・態度】



図1 第1時・第2時での授業の様子

表2 動機づけ場面で生徒があげた「東京2020大会」に関する食生活の視点

すし・てんぷら・そば・おでん・うどん・すき焼き・和食の飲食店を増やす・メニューの英語表記・豚を使わない料理・特産品・箸・経済効果・作法（「いただきます」など）・値段が上がる・旬のもの・各国の伝統料理・安全性・品質・米・和菓子・多言語対応メニュー・特産品・懐石料理の美・お茶漬け・外国の人が快適に食事ができる・宗教にあった食べ物・フォークとナイフの準備・職人技・調理台が見えるようにする・漆器・和食

※班ごとに、マンダラートを使用して考えさせて出てきた内容

3-2. 授業前後の生徒アンケートに関する資料

授業前後の生徒アンケートを表3, 質問Iに関する結果を図2・図3・図4, 授業後の生徒記述を表4に示す。

表3 授業前後の生徒アンケート

I	東京で開催されるオリンピックは楽しみですか？
1	とても楽しみ 2 まあまあ楽しみ 3 そうでもない
II	前回のリオでのオリンピックに比べて、楽しみですか？
1	リオより楽しみ 2 リオと同じ程度 3 そうでもない
III	オリンピックに何らかの形で、関わりたいと思いますか？
1	とてもそう思う 2 まあまあ思う 3 思わない

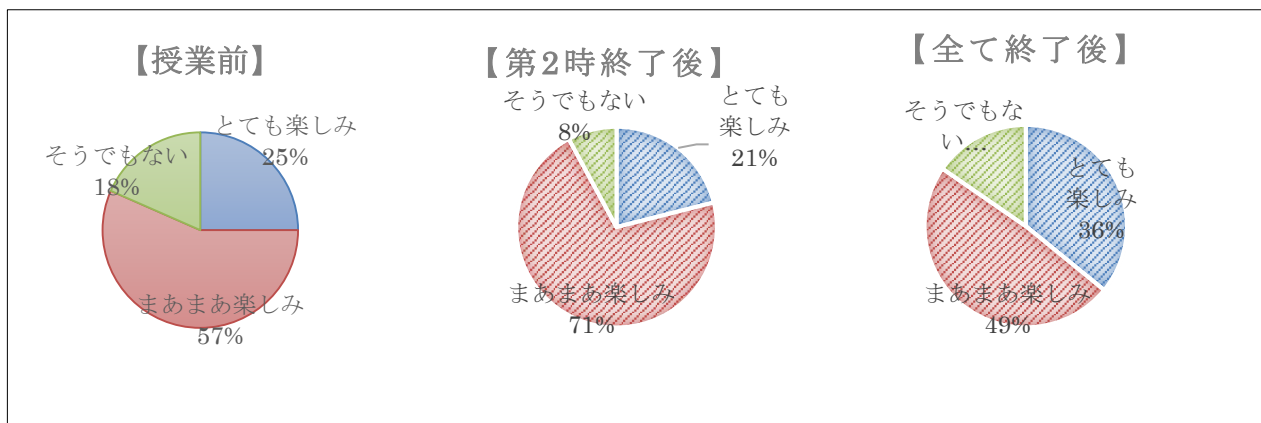


図2 質問Iに関する結果

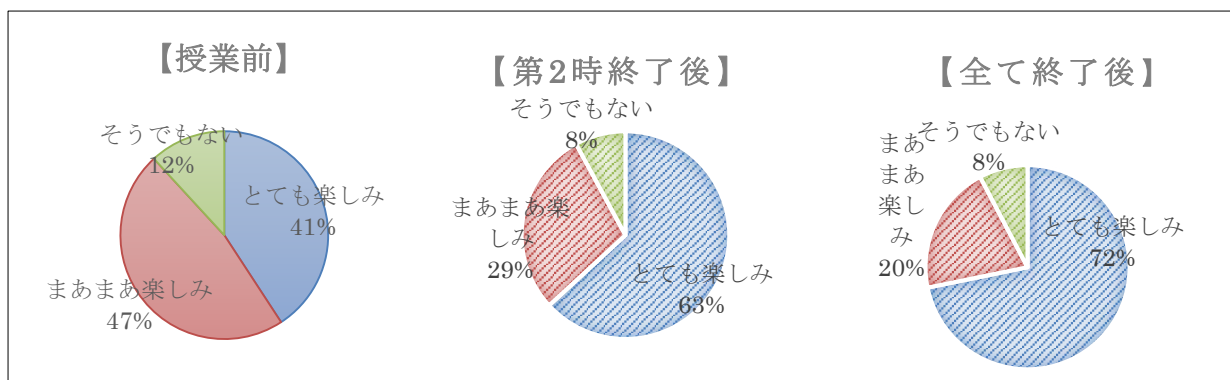


図3 質問Ⅱに関する結果

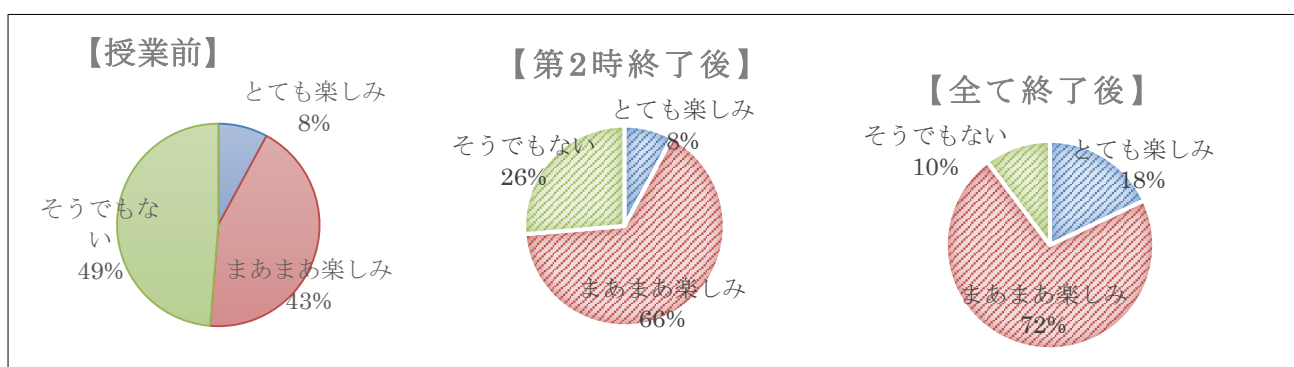


図4 質問Ⅲに関する結果

表4 授業後の生徒記述 ～私の東京オリンピック～

- ・今回、メキシコの料理を作ってみて、他国の文化と触れることで、自分の中で国際交流ができたと思う。
- ・メキシコの人々が来たら、自分が考えた日本食とのコラボメニューを作って食べてもらいたい。
- ・東京オリンピックが手に届く感じ。海外の主食も知ることができると思うので、いろいろな国と交流ができると思う。もっといろいろな国の衣食住について知りたい。
- ・他の主食も食べてみたいと思った。
- ・その国の人と言葉がわからず話せなくても、食を通じて仲良くなれると思った。
- ・東京オリンピックに出る外国の食をいろいろ食べてみたい、その国のことを調べたりしたい。
- ・新しい国の文化について知ることができるといいチャンスにしたい。また広い国々へ日本の良さ(和食・観光等)を、自分も出来る限り発信できたらいいと思う。
- ・他の国の食べたことのない料理を食べてみたい。
- ・いろいろな国の人々が来るので、その国の食を知りたいと思った。また、日本食も食べてもらいたい。
- ・他にも衣や住(建物)に関しても、たくさんの文化を受け入れてもらえるよう、また、受け入れるようになると思った。
- ・日本ならではの食べ物を使って歓迎したり、食だけじゃなく衣・住も学んで、少しでも外国の人たちのことを理解できるようにしたい。
- ・オリンピックを見に来た外国の人の役に立てるように、困っていたりするのを見つけたら声をかけるなど、見に来た人のために、何か出来るようになりたい。
- ・自国の文化を知るチャンスだと思う。

・ささいなことでもオリンピックに関わることができたらいいと思った。今回の学習を通して、オリンピックだけでなく、世界の他の国々の文化にも関心を抱くことができた。

・選手が広島に来るということを思うと、何かおもてなしをして、今後、その国と関わりが深くなっていければとても良いことだと思う。

・相手の国の料理も紹介してもらおう事で、スポーツだけでなく文化の面でも交流できると面白いと思う。

・メキシコの人が、メキシコと日本のコラボ料理を食べれるように、メニューとかを考えて作ってみたい。外国人観光客とかの“食”についてのことにかかわったり、助けたり教えたりしたい。

・今回の“食”の学習を通して、異文化の国の食べ物は、かなりなじみにくいということがわかった。それは、日本に来た外国人でも一緒だと思うので、その人たちでも食べやすいような日本食を紹介し、オリンピックをきっかけにして日本の食文化についての、理解を深めてもらえるようなことをしてみたい。

・今回の授業で、いろんな国を調べてみて、知らない国の食べ物を知ることができ、日本とは違う食べ物に興味をもった。スポーツだけでなく、観戦をしに来た外国人と食べ物でも関わることができたらなと思います。

4. 考 察

家庭科では、これまで授業で得た知識や技能をいかに活用させてアウトプットさせるかを課題として授業に取り組んできた。今回教材として「東京2020大会」を扱ったのは、東京都教育委員会の取組に出会ったからである。東京都においては、都内全ての幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校および特別支援学校を対象に2016年9月から「東京都オリンピック・パラリンピック教育」を実施している。この取組は全ての教科で行われており、家庭科では、1年生では、環境教育として風呂敷を教材にした授業、2年生では、和食や和服、3年生では、伝統文化ということから茶道体験を取り入れた授業を展開している。どれも日本の文化を学ぶという発想からの授業であるが、今回提案した授業は、他国文化を学ぶことから自国に目を向ける授業展開とした。そのため、他国にいかに関心関心を抱かせるかが、最大の課題となった。広島を合宿地に決定したメキシコを取り上げ、メキシコの主食を試食しメニューを考えさせたことは大変効果的であった。「私とオリンピック」をテーマとした生徒の記述からも、東京2020大会を扱った今回の授業は、「豊かな学び」を生む教材となり、動機づけになったことがわかる。また、今回の研究で明らかになった新たな教材を開発するための視点は、次の3点である。

- (1) 知らないことに対して知識を獲得させる時、その動機づけがとても大切であること。
- (2) 最終的に、獲得した知識や技術を活用したいと思わせるためには、アウトプットできる場面が、普段の生活の中に存在すること。
- (3) より生徒を引きつける動機づけとなる教材は、少し知っているが、深くは知らないものがよい。今後も、生徒をとりまく周囲の環境や社会情勢などを意識して動機づけを考慮し、教材開発していきたい。

【 引用・参考文献 】

広島大学附属東雲小学校・東雲中学校、「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造—協働的問題解決ができる子どもの育成をめざして—, 東雲教育研究会実施要項, 2015.

松下佳代著, ディープ・アクティブラーニング, 勁草書房, 2015.

東京都教育委員会, 「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針, 2014.